

令和6年度『医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業
地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム（SATREPS）』中間評価結果報告書

研究課題名	トルコにおける顧みられない熱帯病、特に節足動物媒介性感染症制御に向けたワンヘルスの展開
機関名	東京大学
研究開発代表者名	三條場 千寿
採択年度	令和3年

- 蚊やダニなどの節足動物が媒介する感染症および人獣共通感染症は人類の健康にとって脅威であり、その制御は喫緊の地球規模課題である。これら感染症制御には患者の診断、治療、予防に加え、ワンヘルスの観点から伝播サイクルに関与するベクター昆虫やリザーバー動物などの生物因子の制御が必須である。本研究では、トルコにおいて大きな健康被害をもたらしており、節足動物媒介性かつ人獣共通感染症であるリーシュマニア症および蚊媒介性感染症を対象とし、1) 伝播サイクルの解明、2) リスクマップの構築、3) 新規診断技術の研究開発・実装化、4) ベクター昆虫およびリザーバー動物制御技術の開発、5) National Guidelines の策定を行い、トルコにおけるこれら感染症制御に貢献することが目標である。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大やトルコ大地震等などにより研究実施が困難な時期があったが、リスクマップの作成や新規診断技術の開発などにおいて様々な成果が創出されており、多様な研究計画全体を通して順調に進捗していると評価される。
- 血清疫学調査、新たな抗原の確認などの成果は評価される。採集した検体の網羅的解析により、細胞変性効果を示すウイルスが分離・検出されたことについて、更なる解析結果が待たれる。リスクマップは、ジョージア、マレーシア、チュニジア、ブータンの研究者からも問い合わせがあるなど、他国にも裨益する可能性がある。成果の学会発表なども積極的に行われている。
- 社会実装のために相手国の保健省と良く連携しており、日本側研究者と相手国研究者の相互の訪問も頻繁に実施されている。
- 自らフィールドでベクター採取作業に従事するなど、研究開発代表者のリーダーシップは評価される。一方、日本から本研究に参加する学部学生や教員の役割分担と人材育成の方向性、相手国研究者の役割が不明瞭である。日本ならびに相手国の若手研究者のキャリアパス支援継続が期待される。
- 5つの研究開発項目それぞれについて成果が得られつつあるが、今後は社会的ニーズへの対応が求められる。現状では、各成果の科学的・技術的なインパクトならびに疾病コントロールへの繋がりが明らかでない。今後、各研究開発項目の焦点を絞り、対象疾患の制御につなげるための研究開発が求められる。